

第65回全国高等学校家庭クラブ

指導者養成講座に参加して

県立西脇高等学校 岡田 菜由

本年度の指導者養成講座 四角箱」ではユニット折り紙は7月25日・26日の2日について学びました。作った間、国立オリンピック記念青少年センターでの開催となりました。兵庫県からは生徒2名、顧問教諭1名が代表として参加しました。開会式後、「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」その意義と実践」というテーマで山梨県立山梨高等学校長の清水規与美先生よりクラブ員講義がありました。家庭科と学校家庭クラブの4つの基本精神を学び、家庭科学習やホームプロジェクトを通して、何が得られるのかを考える機会になりました。続いての分科会では他の都道府県の参加者とグループになって「見つけよう 楽しもう」これからの学校家庭クラブ活動」という協議題のもと、学校で行っている家庭クラブ活動を共有し合いました。また、活動を継続するにはどんなことができるか、新しい活動や、そのために何が必要なのかを話し合いました。話し合いをすることで自分にはなかった考えや知らない活動がたくさんあり、多くのことを学ぶことができました。初めて出会った人ばかりでしたが話し合いを通して、仲が深まっていき、楽しい時間を過ごせました。体験講座「ユニット折り紙

2日目は学生団体「やさしいせいふく」の活動についてお話を聞きました。私と同じ高校生が環境問題や、人権問題などを考え解決しよう

と行動しており、尊敬するとともに自分たちも行動を起こしていかないと思わされました。

今回の講座では、多くのことを学び、実りのあった交流でした。全国各地の家庭クラブ員との話し合いは、考えたことない意見ばかりで、これからの活動に生かしていきたいと思いました。このような経験ができたことに感謝し、新しいことにも挑戦しながら多くの方と交流して、さらに良い家庭クラブ活動を行っていききたいです。



第72回全国高等学校家庭クラブ

研究発表大会に参加して

県立小野工業高等学校 末澤 純奈

第72回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会が令和6年8月1日(木)、8月2日(金)の2日間、神奈川県にある鎌倉芸術館で開催されました。

オープニングは、県内高校の和太鼓部の皆さんの迫力ある和太鼓の演奏から大会がスタートしました。伝統を引き継いで演奏されている姿に感動しました。

「ホームプロジェクトの部」では、7校の発表を拝聴しました。すべての発表が家族や地域を一番に考え、課題を見つけて研究を行っていました。また地元の食材を使うことで、地産地消にも取り組まれていることが印象的でした。

「学校家庭クラブ活動の部」では、7校の発表を拝聴しました。地域を盛り上げるために、大学や他の高校と連携し、活動されていた。後継者が少なくなっている染め物を広めたり、地元の食材をいろいろな方に知ってほしいという思いから、食材を使ったドレッシングを開発されたり、地域のことを最優先に考えた研究が多く、地域をより盛り上げたいという意思を感じることができました。

今回の神奈川大会に参加して、自身の家庭クラブ活動



令和6年度兵庫県高等学校家庭クラブ連盟1年間のあゆみ

月日	行事	場所
5月 7日(火) ~14日(火)	兵庫県高等学校家庭クラブ週間	各校にて実施
5月16日(木)	兵庫県高等学校家庭クラブ連盟第1回顧問会	県立小野工業高校
6月28日(金)	近畿ブロック高等学校家庭クラブ連盟 近畿府県連絡会	滋賀県大津市 合同庁舎
7月25日(木) 26日(金)	第65回 全国高等学校家庭クラブ指導者養成講座	国立オリンピック 記念青少年総合 センター(東京)
8月 1日(木) 2日(金)	第72回 全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 全国役員会・開会式・研究発表・総会 研究発表・表彰・閉会式	(神奈川) 鎌倉芸術館 ※オンライン発表有
8月22日(木)	令和6年度 兵庫県高等学校 家庭クラブ連盟総会 第64回 兵庫県高等学校 家庭クラブ研究発表大会 家庭クラブ発表:洲本、高砂南、神崎 ホームプロジェクト発表:伊丹 第63回 兵庫県高等学校家庭クラブ 指導者養成講座 「ものづくりで楽しく地域貢献活動! ~伝統工芸“つまみ細工”で向日葵 ストラップ製作体験~」 講師:華舞~hanamai~ 岩元真澄先生	小野市うるおい 交流館エクラ
2月10日(月)	兵庫県高等学校家庭クラブ連盟第2回顧問会	県立小野工業高校
2月10日(月)	兵庫県高等学校家庭クラブ新聞発行(第47号)	
2月19日(水)	会計監査	県立社高校

令和6年度兵庫県高等学校家庭クラブ連盟 役員

役 職 名	名 前	所 属
成 人 会 長	藤 原 喜 成	兵庫県立 小野工業 高等学校
成 人 副 会 長	村 井 和 幸	兵庫県立 西脇 高等学校
	仲 島 聖 子	兵庫県立 小野工業 高等学校
	岡 田 咲 子	兵庫県立 西脇 高等学校
生 徒 会 長	永 濱 凜 華	兵庫県立 小野工業 高等学校
生 徒 副 会 長	竹 元 姫 菜	兵庫県立 小野工業 高等学校
	大 原 春 暁	兵庫県立 小野工業 高等学校
	岡 田 菜 由	兵庫県立 西脇 高等学校
生 徒 書 記	林 田 衣 織	兵庫県立 小野工業 高等学校
	脇 坂 心 寧	兵庫県立 西脇 高等学校
生 徒 会 計	末 澤 純 奈	兵庫県立 小野工業 高等学校
	久 保 美 祈	兵庫県立 小野工業 高等学校
生 徒 会 計 監 査	小 田 汐 里	兵庫県立 社 高等学校
	岸 本 璃 子	兵庫県立 社 高等学校

編集後記

今年度は、県立小野工業高等学校が事務局を担当させていただきました。8月の県連の大会では、新型コロナウイルス感染症蔓延以来初の無制限の実施をすることができ、述べ155名の参加をいただきました。指導者養成講座で初めて出会ったクラブ員同士が互いの地域を紹介し、質問しあったり、モノづくりをしながら楽しそうに交流したりする、その姿を見て、改めてクラブ員同士の交流の機会の大切さを感じました。

最後になりましたが、顧問・理事の先生方をはじめ各校の家庭科の先生方のご協力、お力添えに感謝申し上げます。1年間、お世話になりました。今後ともよろしくお願いいたします。





第47号
兵庫県高等学校
家庭クラブ連盟
発行兵庫県立小野工業高等学校



家庭クラブ員の活躍を誇りに思う

兵庫県高等学校家庭クラブ連盟成人会長
県立小野工業高等学校校長 藤原 喜成

校庭の樹木にも春の息吹を感じる季節となりました。平素は、兵庫県高等学校家庭クラブ連盟の活動にご理解ご支援を賜り、誠にありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

さて、令和6年8月22日には、令和6年度兵庫県高等学校家庭クラブ連盟総会、第63回兵庫県高等学校家庭クラブ指導者養成講座、並びに第64回兵庫県高等学校家庭クラブ研究発表大会を小野市うるおい交流館エクラにおいて、兵庫県教育委員会事務局高校教育課指導主事 岡本由佳子様のご臨席を賜り、また、日頃ご指導をいただいている多くの先生方、家庭クラブ員の皆様のご尽力により盛大に開催できました。特に、当日研究発表をいただいた、4校の研究発表は素晴らしく、家庭クラブ連盟の「創造・勤労・愛情・奉仕」の精神を踏まえた、且つ、文化伝承・食料自給率・健康増進・持続可能な共生

社会など近年注目されている重要なテーマに先進的に取り組まれた素晴らしい発表でした。

また、積極的に他校のクラブ員と交流し、自校の活動に活かせる内容や活動のヒントを得るよう、好奇心や探究心をもった活動が見られ、有意義な会となりました。加えて、生徒自らが主体的に暮らしの中にある課題の解決に向けて取り組んでいるホームプロジェクトや家庭クラブ活動の重要性が、今後の変化の激しい時代を迎えるにあたり、ますます大きくなっており、家庭クラブ員の皆さんの活動に対する地域や関係機関からの期待の大きさを直に感じることもできる大会でした。本大会が、兵庫県高等学校家庭クラブ活動の更なる発展の機会となれば幸いです。

第4期「ひょうご教育創造プラン」が今年度からスタートしました。国際情勢の不安定化やグローバル化、ICT

現代社会は、技術の進歩やグローバル化、気候変動など、多くの要因によって急速に変化しています。このため、将来の変化を予測することがますます困難になっています。この予測困難な未来を生き抜くためには、問題解決能力やコミュニケーション能力が重要な鍵となります。

学校家庭クラブ活動は、家庭科の学びで得た知識や技術を元に、自分や家族、学校や地域の問題を他の人と協力しながら解決する方法を考え、実践していきます。生活を科学的に探究する方法を学ぶことで、日常の中に潜む問題や課題を発見し、それに対する解決策を見つける力が身につきます。また、さまざまな活動を通じて、相手の気持ちを理解し、共感する力が培われ、コミュニケーション能力が身につきます。

学校家庭クラブ活動を、積極的に行うことで、みなさんは自然と未来を生き抜く力を身につけることができます。このすばらしい学校家庭クラブ活動を発展させるために、まずはみなさんが、喜びや達成感を得ながら

学校家庭クラブで学んだこと



兵庫県高等学校家庭クラブ連盟生徒会長
県立小野工業高等学校 永濱 凜華

令和6年度、兵庫県高等学校家庭クラブ連盟の生徒会長を務めさせていただきました。本年度は、無制限で「令和6年度兵庫県高等学校家庭クラブ連盟総会」「第64回兵庫県高等学校家庭クラブ研究発表大会」「第63回兵庫県高等学校家庭クラブ指導者養成講座」を開催することができ、たくさんのクラブ員の方に参加していただきました。

また、「第72回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会（神奈川大会）」に参加させていただき、貴重な経験をすることができました。全国の家庭クラブ員が研究した研究発表を聞き、どの研究

も今後の活動の参考になる大きな学びとなりました。8月に行われた県家庭クラブ連盟行事には、先生方を含め155名の方に「参加いただき、県内各地区の普段は関わることのない家庭クラブ員と交流することができました。」

昨年の全国指導者養成講座でタティングレースの研修を受けてから、兵庫県指導者養成講座でも、ものづくりを通じてクラブ員の皆さんと交流を深めたいと思い、「つまみ細工体験」を企画し、本校の家庭クラブ員全員で準備・練習してきました。

体験前のアイスブレイクとして、地域の特産物など自

分の地域のことをグループ内で紹介しあった際は、予想以上に盛り上がり、新しい発見もありました。その甲斐あって、指導者養成講座では、グループ内で会話をしながら楽しくストラップを製作して協力して取り組んでよかったと思いました。県内のクラブ員と親交を深める機会を持つことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、一年間、県連盟の活動へのご理解、ご協力に心から感謝申し上げます。本当に有難うございました。

学校家庭クラブ活動の意義と魅力

兵庫県教育委員会事務局高校教育課
指導主事 岡本 由佳子



ら、魅力ある活動を実践し、自己成長を実感してみてください。

さて、8月に開催された兵庫県高等学校家庭クラブ連盟総会、指導者養成講座並びに研究発表大会の研究発表では4校が発表をされました。いずれの発表も、家庭や学校、地域に目を向けた課題を設定し、家庭科の学びを生かして解決を図ることで、生活の改善や活性化につなげようとするすばらしい内容でした。各学校において創意工夫し、一層充実した実践を進められることを期待しています。

この魅力ある学校家庭クラブ活動に、一人でも多くの先生と生徒が参加し、本県の学校家庭クラブ活動がより一層発展するためにも、公立・私立を問わず、多くの高校が学校家庭クラブ連盟に加盟し、兵庫が一つになって活発に活動していくことを願っています。今後も、地域と連携を密に図りながら、家庭クラブ活動がより一層活性化し、みなさんが、力を合わせて楽しく活動することを期待しています。

第64回兵庫県高等学校家庭クラブ研究発表大会

令和6年8月22日(木) 会場:小野市うるおい交流館エクラ

目標達成賞
研究計画賞

学校家庭クラブ活動発表

地域で地域を支えるまちづくり
子どもと創る「みらいえ」

県立洲本高等学校

■題目設定の理由

本校家庭クラブは、6年前から近隣にある「子ども食堂」でのメニュー提案やお手伝い、交流などを行ってきたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため食堂運営を継続することができなくなりました。これを機に、地域で地域を支える新たなコミュニティづくり(子ども第三の居場所)を目指し、生まれ変わったろうとしていることを知り、私たち高校生にできることは何かと考え、活動を共に進めていくことにしました。

(4)誕生日会の企画・実施

誕生日会という事でサブリイズ誕生日会を開催し、カップケーキをつくり、子どもたちにそれぞれデコレーションしてもらいました。

(5)「みらフェス夏祭り」の企画・実施

地域の活性化、地域と子どもたちとの交流の機会として夏祭りを開催しました。

■実践活動

(1)子ども第三の居場所「みらいえ」のオープンに向けて

(2)遊びの提案

施設を利用する子どもたちと交流する中で、施設内で身体を動かす遊びが少なく、子ども同士が協力して何かを成し遂げる経験も少なく、特にボードゲームを楽しんでいたことより、「人間すごろく」という自分が駒になるオリジナルすごろくを制作し、遊んでもらいました。

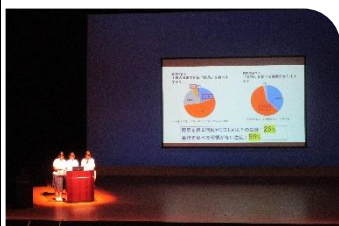
■まとめと今後の課題

今回の研究を通して、子ども第三の居場所の存在意義を知り、みらいえが子どもだけではなく保護者や地域の架け橋となる場所であると感じました。これから子どもたちや家族が抱える様々な問題を知り、私たちができることを地域や多くの人と協力しながらよりよ

(3)メニュー提案

施設内の子どもの食堂では調理職員が一人のため、献立作成に苦勞し、デザートまで提供することも困難であ

い社会の構築に向けて貢献していきたいです。



研究発表大会の様子



研究発表表彰式の様子

地域で地域を支えるまちづくり

～子どもと創る「みらいえ」～

兵庫県立洲本高等学校 家庭クラブ

1. 事前調査と状況把握

(1) 事前調査

調査項目	調査結果	調査結果	調査結果	調査結果
人口総数	4,238	4,238	4,238	4,238
人口密度	11.7%	11.7%	11.7%	11.7%
人口減少率	-0.1%	-0.1%	-0.1%	-0.1%
人口増加率	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
人口減少率	-0.1%	-0.1%	-0.1%	-0.1%
人口増加率	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%

(F)洲本市総合計画後継基本計画第2期(2025年度)より

(2) 状況把握

①YORISOI米田屋のNPO法人代表、李貴一さんの話より

日本の子どもを100人と仮定→34.3人が問題を抱えている
★子どもが直面している問題…経済的ハンデ、発達障害、虐待、孤立等
その結果、子どもの第三の居場所、誰一人取り残されない地域コミュニティ作りが必要!!

(3) メニューの提案

〇提案したメニューがいくつか採用された

- ①カレーライス、ポテトサラダ
 - ②ご飯、ハンバーグ、ミネストローネ、サラダ
 - ③グラタン、オニオンスープ、サラダ
- ↓
- ①カレーライス、マカロニサラダ
 - ②ご飯、ハンバーグ、コンソメスープ、サラダ
 - ③グラタン、野菜スープ、サラダ

(2) 遊びの提案

「人間すごろく」

自分自身がコマとなってゴールを目指すすごろく
子どもたちの自己表現のスキルを磨き、人と関わる楽しさを学んでもらう
実際にやってみて...
楽しかったと言ってくれた反面、高学年の子どもたちからは「順番待ちしている時間が退屈だ」という意見が出た。



今回の研究を通して、多くの生徒や保護者が高砂市の特産品である「松右衛門帆」を知ることが分かった。広める活動として高砂子ども園の園児に松右衛門帆で作ったキーホルダーをプレゼントし、高砂市立図書館に

第2回アンケート調査
まとめと今後の課題
今回の研究を通して、多くの生徒や保護者が高砂市の特産品である「松右衛門帆」を知ることが分かった。広める活動として高砂子ども園の園児に松右衛門帆で作ったキーホルダーをプレゼントし、高砂市立図書館に

本校に寄贈された「松右衛門帆の綿布」が図書室に飾られている。私たち家庭クラブは、この「松右衛門帆の綿布」に興味を持ち、高砂市の特産品やふるさと納税の返礼品にもなっている松右衛門帆で、高砂市の文化の伝承と活性化に貢献したいと思いの題目を設定した。

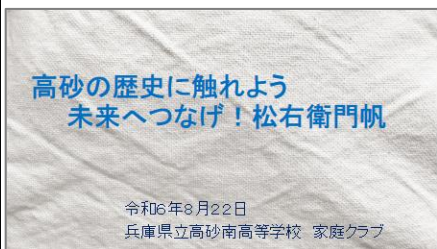
本校に寄贈された「松右衛門帆の綿布」が図書室に飾られている。私たち家庭クラブは、この「松右衛門帆の綿布」に興味を持ち、高砂市の特産品やふるさと納税の返礼品にもなっている松右衛門帆で、高砂市の文化の伝承と活性化に貢献したいと思いの題目を設定した。

発表表現賞

学校家庭クラブ活動発表
高砂の歴史に触れよう
未来へつなげ! 松右衛門帆

県立高砂南高等学校

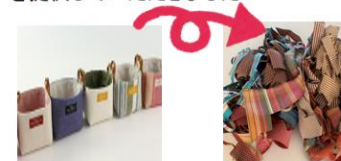
園児たちへクリスマスプレゼント



高砂の歴史に触れよう
未来へつなげ! 松右衛門帆

令和6年8月22日
兵庫県立高砂南高等学校 家庭クラブ

御影屋さんより松右衛門帆のはぎれを提供していただきました



(2) 広める活動

③文化祭で広めよう! 体験作品の検討



体験作品の決定



課題設定賞

学校家庭クラブ活動発表

食への関心が地球を救う！
私たちの意識改革！

県立神崎高等学校

■ 題目設定の理由

本校には生徒が利用できない食堂がなく、自動販売機での菓子パン購入のみが可能だった。生徒の多くが不便を感じていることから、生徒会役員と家庭クラブ員が中心となって働きかけた結果、今年度から近隣の飲食店による「キッチンカー」で弁当の販売を実施することになった。試行段階を経た時期に「中間アンケート」を実施した結果、「日替わり弁当」より「パン」を購入する割合が非常に高く、栄養バランスに偏りが出たのでは、など気がかりな点がいくつか浮かび上がった。そこで成長期である高校生が自らの食生活を振り返り、改善に向けて「食への意識」を高めるきっかけづくりに取り組むことにした。

■ 実践活動

全校生徒を対象に「食に関する意識調査」を実施し、その結果から本校の課題を次の3項目にまとめた。

- (1) 全校生徒の26%が朝食を欠食している
- (2) 全校生の14%が1日1回以下しか米を食べない
- (3) 野菜・果物の摂取量が不足している

これらの問題を改善するため、「校内での啓発」や「地域社会との連携」という「内」と「外」に向けた2つのアプローチとして取り組むことにした。まず、校内では「日替わり弁当」の栄養計算をし、高校生の食事摂取量基準を充足しているか写真とともに生徒玄関へ掲示した。また食料自給率の低い日本において、100%近い自給率を誇る「米」をできるだけ消費するよう、家庭クラブ員が考案した「米」を使った朝食レシピをTeamsで配信し、自宅で活用できる環境を整えた。一方、校外では、地域の特産品である「米粉」を使ったレシビ開発、近隣飲食店での米粉菓子販売、小学生への料理教室を実施した。

■ まとめと今後の課題

全校生徒が「食への意識」を持つことを目標に、栄養に関する知識や情報発信に力を入れたいが、これをきっかけに本校の生徒が食への興味をもち、自ら料理に取り組むことを願っている。また今回の研究を通して、私たちが驚くほど「小麦」に頼っている事実を知った。減少の一途をたどる「米」を意識して消費することや「地産地消」につながり、地域の活性化や輸送コストの削減が実行できる。サステイナブルな社会の実現を目指すべく、今後も活動を継続したい。

創意工夫賞

ホームプロジェクト発表

家族の健康×地産地消
「たみまるレモンクッキー」を作ろう！

県立伊丹高等学校
2年 中川 結命奈さん

■ 題目設定の理由

きっかけは、母がダイエットをしていたことだ。母が健康を維持するため、大好きなお菓子を制限しているのを見てダイエット中でも食べられるヘルシーなお菓子をつくることで助けになれば、と思いヘルシーなお菓子を考えると、地域の特産物「たみまるれもん」について調べ、どうすれば地域の食材を生かせるか追求してみたいと思った。

■ 実践活動

- (1) メニューの決定
アレンジのしやすさと作りやすさからクッキーに決定。
- (2) レシピの検討・決定
セブンプレミアム公式の「サクッとさわやか！レモンアイスボックスクッキー」のレシビを参考。
- (3) 調理・試食・観点別評価
前述のレシピから変更して、たみまるレモンの果汁を生地に混ぜ込み、見栄えをよくするために、はちみつ漬けにしたたみまるレモンのスライスとクッキーの上に乗せた。(味・見た目・食感の3項目)をすべて★5つ中の★3つとして、以降の試作品の評価の基準とした。
- (4) レシピの改善・再び評価
はちみつレモンを漬ける時間を30分から一晩へ延長する

■ まとめと今後の課題

最後の試作で作ったクッキーの評価は、総合評価3.2。一回目の試作品よりも一枚当たり約21kcal削減できた。今回研究に取り組んだ結果、お菓子づくりの楽しさやむずかしさ、米粉やラカントなどの食材がヘルシーだと言われる理由、その根拠となる情報、いままでも名前すら知らなかった地域の食材のおいしさについて知ることができた。

今後も家族の健康を食からサポートしていきたい。

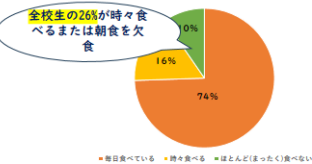
食への関心が地球を救う！
～私たちの意識改革～



兵庫県立神崎高等学校
DISCOVERY HIGH SCHOOL

食に関する意識調査 (抜粋)

質問項目：あなたは毎日朝食を食べていますか？



開発した「地産地消」レシピ例②

赤飯おにぎり



材料
・小豆 (神河産)
・もち米 (神河産)
・塩

カフェで提供しているスイーツ

～米粉の煎茶入りクレープ～

材料
・米粉 (神河産)
・仙露茶 (神河産)
・小豆あん (神河産)
・ブルーベリー (神河産)
・卵
・牛乳
・米油
・きび砂糖
・生クリーム
・白玉粉
・きな粉



家族の健康×地産地消
たみまるレモンクッキーを作ろう

兵庫県立伊丹高等学校
2年 中川 結命奈

伊丹市の特産物「たみまるレモン」とは？

伊丹産のマイヤーレモン。通常のレモンよりも一回り大きく、糖度の高さ、果汁の多さ、香りのよさにも優れている。加工に適しており、苦みが少なく、食べやすい。



②1/24第2回試作

＜感想＞

- ・レモンの皮の苦みがなくなっていた
- ・レモンの水分が気になった
- ・あまりヘルシーにならなかった

砂糖80g→70g 1回目より約2割減



ラカントとは？

- ・ラカンカ、エリスリトールからできている甘味料。
- ・砂糖の300倍の甘さがあるが、配合の割合を調節している。
- ・実際の熱量は0kcalとなる。
- ・太りにくく、食欲増進につながることはない



令和6年度兵庫県高等学校家庭クラブ連盟総会
第64回兵庫県高等学校家庭クラブ研究発表大会
第63回兵庫県高等学校家庭クラブ指導者養成講座

今年度の大会は8/22に小野市エクラにて無事に終了しました。研究発表では、洲本高校、高砂南高校、神崎高校が家庭クラブ活動発表を伊丹高校の中川さんがホームプロジェクト発表をされました。指導者養成講座では、兵庫県の地図を使って地元アピールをするアイスブレイクをした後、講師の岩元先生のご指導のもと、つまみ細工で小野市市花ひまわりをモチーフにしたストラップを製作しました。短時間の交流でしたが、和気あいあいと穏やかで楽しそうな雰囲気でした。



＜クラブ員の感想(アンケートより抜粋)＞

普段聞けることのない他校の活動について詳しく知れ、自分たちの活動に活かせるものが沢山見つかった。/自分では考えつかないようなことを思いついてそれを実践できるのがすごいと思った。/他地区の高校生たちと会話できることはめったにない貴重な経験だった。このような機会が増えたらいいと思った。/たくさん学べるがあったて、参加して良かったと思った。